

干潟の生物守りたい

本城小児童が観察学習

24.6.28 宮田



多様な生き物がすみ干潟を守ろうとこみを拾った本城小児童

生きものの豊かな自然に壊れてもあつと申田中・本城小(藤田尚人校長 80人の1・4年生4人はこのほど、近くの干潟で生き物観察学習を行った。中木小3、4年生も入初参加。干潟の清浄やカニの放流も行い、自然を守る心を養った。

野土について学ぶ「こま学」の一環。干潟には環境減

低環境に指定されている。オアアキヤとヒゲアキヤをこま生き物が生息する。近所に住む鳥野動物園保護観察員の下、まきさんがこれらの生き物を飼育。木の浄化装置でもある干潟は、魚の産卵場所や渡り鳥の餌場として多様な命を育んでいると保全を訴えた。

干潟に入った児童は、ぬか多量に採取されながらも貝

を掘り出した。とらげやカニを捕まえて、互いに見せあつた。「家も何となく見るともいた。

観察と合わせ、市談水漁協と合同で、山本那ガニの放流や干潟のこま拾いを行った。

中木小3年の藤田彩羽さん(9)は「おびくらのよこせを捕またら、ふんふんしていた。これからも干潟の生き物を守り続けたい」と話していた。